



OK・4CUS

岡山 健康経営®を考える会 会報誌

(2025年4月発行)

第8号

「健康経営」はNPO法人健康経営研究会により
商標登録されています



会員企業随時募集中！「岡山 健康経営®を考える会」事務局：一般財団法人 淳風会
①法人名 ②業種 ③従業員数 ④代表者・担当者 ⑤連絡先 ⑥加入健保 をok4@junpukai.or.jp までご連絡ください！



2024年度 下期総会・講演会を開催 健康経営の実践事例を学ぶ



健康寿命についての最新統計が公表されました



最新の都道府県別の健康寿命が、令和6年12月24日に厚生労働省より発表されました。

健康寿命とは、日常生活に制限のない期間を指し、平均寿命と健康寿命の差を縮めることを目標に、各自治体では健康寿命延伸につながる様々な事業が取り組まれています。健康経営もその一環と捉えられ、考える会では「企業と働く従業員の健康への取り組み改善」を掲げています。

今回公表された2022年の健康寿命は、数値は前回調査の19年からはほぼ横ばいとなっています。山陽新聞社の社説でも触れられていましたが、気になるのは岡山県のデータです。岡山県の平均寿命は男女ともに上位ですが、平均寿命から健康寿命を引いた日常生活に制限のある期間については全国でも下位（男性43位・女性36位）となっています。

一方で健康経営優良法人（中小規模部門）の認定法人数は、2025年度も中四国・九州地区で最も多く全国8位であり、岡山県は健康経営に対する関心が高く、積極的な取り組みを行っている法人は多くなっています。これは考える会の会員企業の皆様の健康経営への関心の高さがうかがえる一方で、健康寿命を延ばす為には、これまで以上に効果の期待できる取り組みを従業員に浸透させて行くことが必要だと言えます。

「岡山 健康経営®を考える会」は2023年に発足しており、2022年時点ではまだ発足しておりませんでした。今回の健康寿命調査時には岡山県のデータが改善されるように、今後は「岡山 健康経営®を考える会」を通じて、多くの法人が具体的なかつ効果的な取り組みにつながるような活動を行っていく事が求められていると感じています。

健康経営アワード2025

2025年3月12日に開催された「健康経営アワード」にて、淳風会の稲岡理事及び熊本県の地銀である肥後銀行が大規模法人部門の代表法人として認定書授与と事例発表を行いました。

今回、淳風会が大規模法人部門の認定書授与と事例発表に選ばれたのは、自機関での健康経営の取り組みだけでなく、健康経営のノウハウをもとにした健康経営サポート並びに、中小企業間で健康経営の課題を共有・解決できる組織である「岡山 健康経営®を考える会」の取り組みを評価していただけたからです。



事例発表では、自機関での取り組みと「岡山 健康経営®を考える会」の取り組みについて発表を行いました。全国的に見ても考える会の取り組みは珍しく、会の取り組みが全国に広がっていった健康経営がさらに盛り上がるという意見もありました。その一方で、健康経営については成果が見えにくく時間がかかるという意見もございました。例えば、コストカットであれば成果が直ぐに数字として表れますが、健康経営が業績アップに繋がっているかは簡単には見えないので、経営者としても取り組みにくいのが課題となっております。

ただ、健康度が高い従業員、例えば睡眠がよく取れている従業員は仕事に対するパフォーマンスが高いというのは医学的にもわかっており、高いパフォーマンスにより業績が良くなり、企業価値も上がる事で離職率も下がるという流れができるのが健康経営です。企業が健康経営に取組み、従業員が企業に大切にされていると思える事が大切です。

「健康」は様々な業種の企業でも、同一の課題として取り組めるテーマであります。今後、会員企業も増え、健康経営に関する企業同士の学びあいの場である「岡山 健康経営®を考える会」が更に充実するように発展していければと存じます。

健康経営アワード2025ホームページよりアーカイブ視聴が可能です。当日視聴できなかった方は、ぜひご視聴＆他企業への拡散をお願いします。
<https://channel.nikkei.co.jp/kenkokejiaaward2025/kenko031205.html>



次年度会長選任と新規会員企業の承認

さらなる発展に向けた第一歩

2025年2月10日、岡山 健康経営®を考える会は2024年度下期総会および講演会を開催しました。今回の総会では、次年度の会長選任決議が行われました。また、新規会員企業の入会決議も行われ、会員数の増加により、さらなる考える会の輪の拡充が期待されます。

総会後には、経済産業省ヘルスケア産業課係長の忠内美保氏をお招きし、「中小企業における健康経営のあり方と政府の期待すること」をテーマに特別講演が行われました。講演では、健康経営の最新動向や企業の取り組み方、行政の支援策について詳しく解説され、特に中小企業にとって実践しやすい施策が紹介されました。

さらに、講演会の後には、中小企業を代表して2社が健康経営の事例発表を行いました。各社の具体的な取り組みや成功事例が共有され、参加者にとって実践的なヒントを得られる貴重な機会となりました。

本記事では、総会の決議内容、忠内氏による講演、そして事例発表の詳細について、レポートします。

この会報誌は考える会の活動をレポートすることで、会員企業同士が健康経営の取り組みをシェアし、相互の交流を深めることを目的として発行しております。健康経営の重要性がますます注目される中、私たちの活動が企業の成長と社員の幸福に繋がることを願っています。



新たな試み！会員企業による事例発表

フジワラテクノアート

フジワラテクノアートではラジオ体操やウォーキングイベント開催等の運動機会の提供、食堂でのヘルシーメニュー提供等を通じて心身の健康づくりを推進。また育児・介護をはじめとしたワークライフバランスを支援する制度を整備する他、それらが活用されるようメンター制度や社内イベントを通じて関係の質向上にも注力し、社員のエンゲージメント向上に繋げること



講演後には、会員企業のセリオ株式
会社と株式会社フジワラテクノアール
が、それぞれの健康経営の取り組みに
ついて発表を行いました。両社は過去
に企業訪問で取り上げられた企業であ
り、その後の進展についても紹介され
ました。

次年度会長の選任と新規会員企業の承認

2024年下期総会では、次年度の会長選任と新規会員企業の入会決議が行われました。次年度の会長には株式会社コンケンの小橋社長が就任することが決定。小橋新会長は挨拶の中で、岡山健康経営を考える会の今後の発展には、会員企業一社一社の協力が必要不可欠であることを強調しました。特に、「健康経営を地域全体に広めるためには、会員一人ひとりの意識と実践が大切」と述べ、会が持つ潜在的な力を引き出すために、積極的な参加を呼び



- ・ 今後の活動予定
- ・ 情報提供
- ・ 新会員募集について

かけました。また、新規会員企業の入会が決定し、会員数は72社となり、より広範囲なネットワークの構築が期待されます。

小橋新会長によるご挨拶

この度、「岡山健康経営」を考える会の新会長に就任いたしました。株式会社コンケンの小橋でございます。当会は2023年4月の活動開始以来、会員企業様の取り組みや講演会等を通じて健康経営の取組促進に努めてまいりました。皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。これからも会員企業の皆様とともに、従業員の健康管理や職場環境の改善に取り組みくとで、従業員が、公私ともに生き生きと暮らすことができる持続可能な社会の実現を目指したいと思います。岡山から全国に向けて健康経営モデルの情報発信ができるよう、引き続き頑張つてまいります。



①(株) グロップサンセリテ
②のんびり家
③(株) 西日本アチューマツト
クリーン
④医療法人自由会

で社員一人ひとりが健康で意欲的に働ける職場づくりを進めています。



セリオ

セリオは、社員の健康管理を企業文化に組み込むことを目指して、良い健康結果・健康行動に対して「健康インセンティブ」を贈る制度を導入しています。これは病気の早期発見・早期治療に効果がありました。メンタルサポート面では、若手社員を対象とした「1on1面談」で、社員一人ひとりの特性を理解し寄り添うことで、社員のモチベーションアップや定着率の向上につながっています。

事例発表後のアンケート

事例発表後の事後アンケートでは、両社の取組みに対し非常にポジティブ

企業訪問のご案内

次回企業訪問について

日時… 6月9日（月） 16時～（15時30分受付）
場所… ダイヤ工業株式会社様
詳細は決まり次第、メールでご案内させていただきます。

山陽新聞にも紹介されました



健康経営利点や支援説明 「考える会」岡山で講演会



な感想が多く寄せられ、特に実践的な内容に対する高い評価が目立ちました。参加者からは、「自社でも取り入れたいと思った」「実際の事例を聞くことで具体的なイメージが湧いた」という声が多く、健康経営の導入に向けた意欲が一層高まる結果となりました。



会員企業・団体数

72社 2025
2月現

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。

2025 年 2 月 11 日付 山陽新聞朝刊より 転載許可済

経済産業省による特別講演



健康経営の所管省庁である経済産業省が考える『中小企業の健康経営』とは？

総会後に行われた講演会では、経済産業省ヘルスケア産業課係長の忠内美保氏をお招きし、「中小企業における健康経営のあり方と政府の期待すること」をテーマに講演が行われました。忠内氏は、健康経営が始まってから10年が経過した現在、その成果として、企業の生産性向上や従業員の健康意識の改善が挙げられることを報告しました。特に、過去10年間の取り組みの中で、政府が提供した健康経営の支援制度が多くの中小企業にとって有益であり、健康経営が定着してきたことを実感していると述べました。また、健康経営



参加者からは健康経営に関する質問が寄せられ、忠内氏に丁寧にご回答いただきました。



が地方都市や中小企業においても実施され、経営者と従業員の双方にポジティブな影響を与えている実例が増えていることが紹介されました。政府が今後支援を強化し、企業規模にかかわらず健康経営を推進していく方針であることが改めて強調されました。さらに地方での健康経営の普及が、地域全体の活性化にも寄与するとの期待が示され、参加者はその意義に深く共感しました。